様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　2025　年　1　月　15　日

１．職名・氏名　　准教授・山下知晃

２．学位　　学位　博士、専門分野　会計学、授与機関　京都大学、授与年　2017

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 簿記原理（4 単位）、主たる配当年次：1 年生
②内容・ねらい 本講義では、簿記の初学者を対象に簿記の基本的な仕組みや各種重要な取引の処理方法などを学習する。受講生が本講義を受講することで、簿記の入門的な知識から日商簿記 3 級程度の知識を身につけることができるように講義する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 受講生が知識を定着させることができるようにするための工夫として、オンデマンドの講義ビデオ教材の利用や毎回講義後のアンケートを実施した。加えて、今年度の取り組みとして、講義前の予習状況を尋ねるアンケートの実施も行った。また、Google form や Slido などのツールを利用し、受講生からの感想や質問を受ける仕組みを設け、それらに対する感想や質問に対するフィードバックを定期的に行うように工夫した。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 簿記論 I（2 単位）、主たる配当年次：2 年生
②内容・ねらい 本講義では、簿記原理の内容(日商簿記 3 級レベルの内容)は理解していることを前提に日商簿記 2 級レベルの内容について学習を行う。本講義は実質的に簿記原理と連続した内容となっており、株式会社簿記の前半部を扱うことになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 受講生が知識を定着させることができるようにするための工夫として、オンデマンドの講義ビデオ教材の利用や毎回の講義アンケートを実施した。また、Google form や Slido を通じて、受講生が質問できるようにし、その質問に対するフィードバックを定期的に行うように工夫した。昨年同様、毎回の講義冒頭で、前回の振り返りやアンケートに対するフィードバックを行うなど、学生の学習威容を高める工夫を行った。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 簿記論 II（2 単位）、主たる配当年次：2 年生

②内容・ねらい
本講義では、簿記原理の内容(日商簿記 3 級レベルの内容)は理解していることを前提に日商簿記 2 級レベルの内容について学習を行う。本講義は実質的に簿記原理と連続した内容となっており、株式会社簿記の後半部を扱うことになる。

② 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
受講生が知識を定着させることができるようにするための工夫として、オンデマンドの講義ビデオ教材の利用や毎回講義後のアンケートを実施した。また、講義では発展的な内容を扱い受講生の応用力を高めるために、新聞記事などを利用して学習内容と関係する実際的な話題についても紹介を行った。今年度は期末試験などでも記述の問題を重視して出題し、学生が学習内容についてより深い理解ができるような工夫を実施した。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
財務報告の理論と実証（2 単位)、主たる配当年次：大学院生 1 年生

② 内容・ねらい
本講義では、財務会計論の基本的な知識を前提に、財務諸表を活用した財務諸表分析の手法を学習する。ただし、本講義ではそれだけにとどまらず、財務諸表分析の学習を通じて利益の質や現代会計を巡る諸問題について検討する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
受講生が知識を定着させることができるようにするための工夫として、毎回講義課題を出し、講義内で講評を実施した。また、講義内ではテキストの内容を超えて、新聞記事なども用いながら、現在、どのようなことが問題となっているかについても議論し、受講生が扱われているトピックに一層の関心が持てるように工夫を行った。

(2)その他の教育活動

内容
オムニまず講義『経営学総論 II』（担当：簿記論パート 1 コマ）
オムニバス講義『経営学総論 II』のとりまとめを木野教授・北野助教とともに行い、簿記論パート（11/29 実施）を担当した。

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【　本】

②学術論文（査読あり）

Yamashita, T., and Fujiyama, K., “Estimating a Firm-Year Measure of Conditional Conservatism for Non-U.S. Firms: Evidence from Japan,” Asia-Pacific Journal of Accounting & Economics, 2024, forthcoming. (DOI: 10.1080/16081625.2024.24438) ※現在公刊準備中

【１本】

③　その他論文（査読なし）

【　本】

④　学会発表等

山下知晃、「日本の条件付保守主義：定型化された事実の再検証」、第 4 回『企業会計カンファレンス』、オンライン、2024 年 3 月 28 日.

Yoshihiro, T., M. Yoneyama, Y. Asami, T. Miyauchi, and T. Yamashita, “Comparative Analysis of Survey Responses Regarding the Subsequent Accounting for Goodwill from Preparers, Users, and Auditors in Japan,” Congrès de l’AFC 2024, Dijion, May 31, 2024.

Yamashita, T., and M. Kusano, “The Effect of Recognizing Off-balance Sheet Liabilities on Financial Leverage Choice: Evidence from Pension Accounting in Japan,” The 11th international conference of JIAR, Taipei, June 21, 2024.

山下知晃、「Measure” Wars? An Empirical Examination of Cash flow Predictability of Accounting Earnings and Cash flows in Japan」、日本会計研究学会第 83 回大会自由論題報告および日本経済会計学会第 41 回年次大会、東京、2024 年 8 月 27 日.

山下知晃、「日本企業の増資と財務報告」、証券経済学会第 96 回全国大会企画セッション、名古屋、2024 年 9 月 14 日.

【５件】

⑤　その他の公表実績（セミナー等での報告）

Yamashita, T. “Does Adding Back Depreciation and Amortization Expenses Really Improve the Predictive Ability of Accounting Earnings?: An Empirical Examination of Japanese Listed Firms,” KU-NTU conference, Taipei, 2024 年 3 月 18 日.

山下知晃、「日本企業の増資と財務報告」資本市場・企業統治研究会、大阪、2024 年 9 月 3 日.

【２件】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

（外部）【研究分担者】

科学研究費助成事業 基盤研究(B)（「のれんの会計方法に係る当事者の認知についての理論および実態調査研究」）、2022 年 4 月より継続中。

（内部）【研究代表者】

令和 6 年度戦略的課題研究推進支援

令和 6 年ステップアップ研究支援（個人研究推進支援）

(3)特許等取得

(4)学会活動等

・国際会計研究学会第 41 回研究大会・韓国セッションにおけるコメンテーター（英語）.

・証券経済学会中部・関西合同部会準備委員（2025 年 3 月 7 日実施予定）、

５．地域・社会貢献活動

公開講座・会計学入門講座 2024 講師（一般向け 1 回）.

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
学生支援委員会
(3)学内行事への参加
・白樫祭経済学部企画『経済経営喫茶倶楽部』（企画運営） ・前期後期経済学部オリエンテーション（学生支援委員）
(4)その他、自発的活動など
・高校訪問（美方高校対面、7 月 4 日実施） ・高校訪問（武生高校オンライン、7 月 11 日実施）